ダイジェスト版

目指せ、公認会計士！

熊本県立八代東高校
2018年2月7日

公認会計士・監査審査会
会長　廣本　敏郎

「目指せ、公認会計士！」

- 公認会計士とは
  - “監査”及び“会計”の専門家
- 会計なくして経済なし
  - Mission（ミッション）
    ⇒　公認会計士の使命（公認会計士法第1条）
  - Professional （プロフェッショナル）
  - Global（グローバル）

公認会計士の使命

公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

（『公認会計士法』第1条）

現代経営の中枢を成す会計

- 日本経済は成熟化し、成長神話は崩れ去り、複雑なグローバル経済の中に組み込まれている。このような時代においては、経営者は、自社の経営の実態を正確に把握した上で、的確な経営判断を下さなくてはならない。そのためには、会計原則、会計処理にも精通していることが前提となる。
  - ところが日本では、それほど重要な会計というものが、経営者から軽視されている。会計と言えば、事業をしていく過程で発生した金やモノにまつわる伝票処理を行い集計をする、後追いの仕事でしかないと考えている。　（続く）

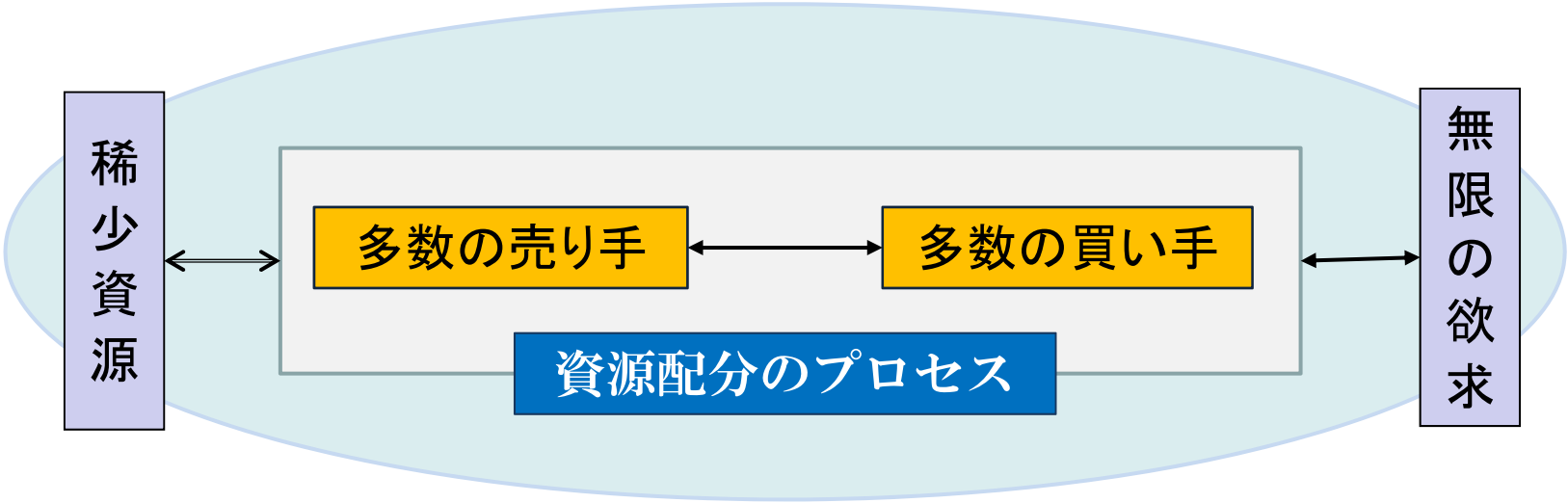
現代経営の中枢を成す会計（続）

- 経営者にとって必要なのは、結果として「いくら利益が出たか」であり、会計の処理方法は専門家が分かっていればよいと思い、更に、会計の数字は自分の都合の良いように操作できる、と考えている経営者さえいる。
  - 私は京セラを創業、ゼロから経営を学んでいく過程で、会計は「現代経営の中枢」を成すものであると考えるようになった。企業を長期的に発展させるためには、企業活動の実態が正確に把握されなければならないことに気づいたのである。（稲盛和夫『実学』日本経済新聞社、1998年、2-3頁）

複式簿記の意義と歴史

市場経済と会計・監査

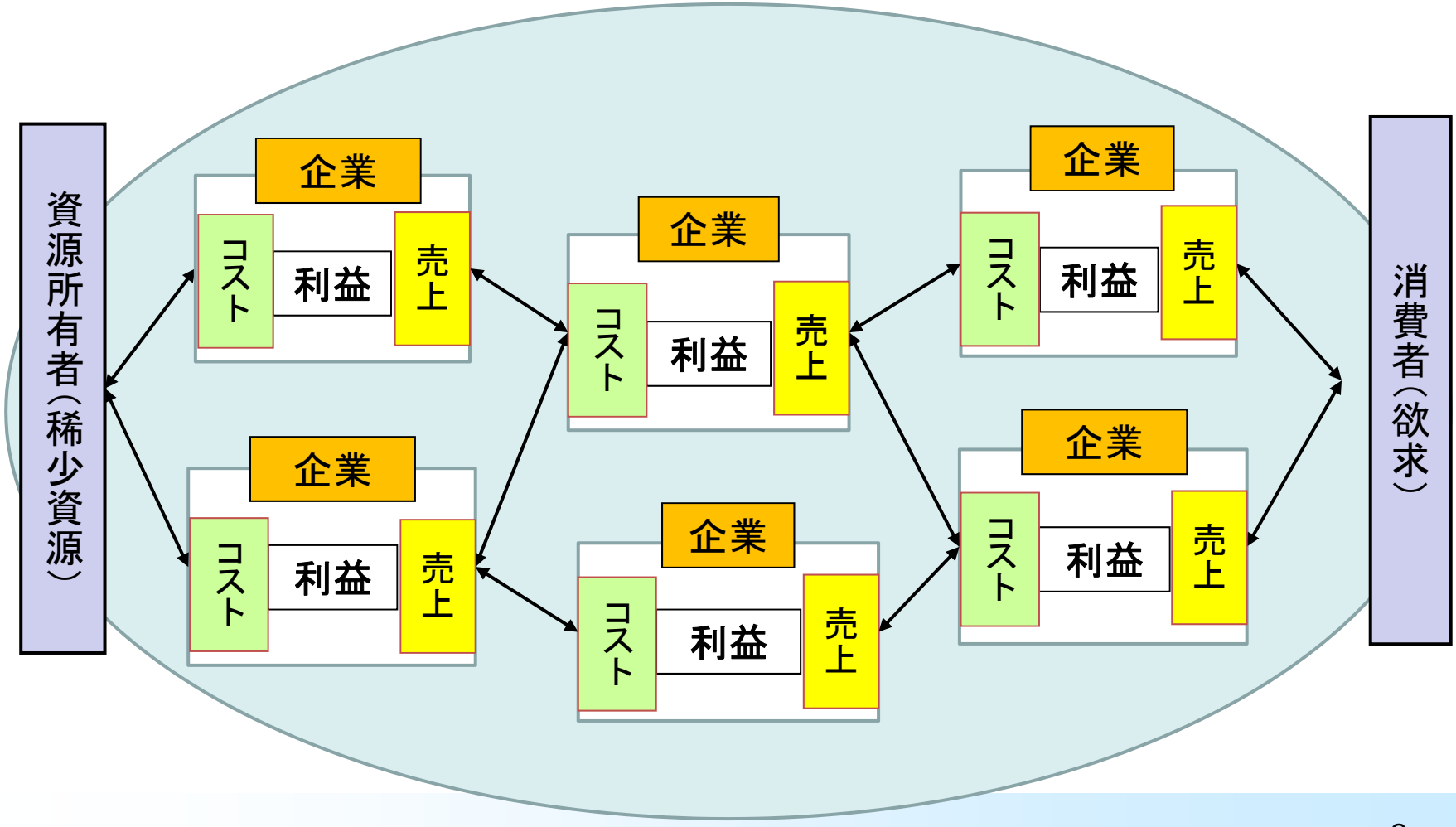
自由を基調とする市場経済



人間は衣食住等に対して限りない欲求を持つが、そうしたモノやサービスを生産するためには資源が必要であり、利用可能な資源には限りがある。

無限の欲求に対し限られた資源を有効かつ効率的に配分するために生まれた制度が、市場経済である。

市場における企業の行動原理
～売上最大、コスト最小～



利益を測る技術の誕生

- 利益を測る技術としての「複式簿記」
  - それは、遅くとも1400年代の北イタリアで、地中海貿易に従事した商人たちによって生み出されました。

歴史上の証拠

ルカ・パチョーリ(1445-1517)がヴェネツィアで1494年に出版された数学の教科書の中で利益測定技術（複式簿記）を解説しています。

（桜井久勝神戸大学教授の夢ナビライブ講義より）

複式簿記の伝播と発展

- 1400年代
  - 北イタリアで誕生し、イタリア商人の活動によりヨーロッパ大陸各地へ伝播
- 1700年代
  - イギリスで製造業の会計（工業簿記、原価計算）が追加される
  - ヨーロッパ人の移住によりアメリカへ伝播
- 1800年代
  - アメリカから日本に伝播

（桜井教授の夢ナビライブ2012講義より）

明治における複式簿記の導入

- 複式簿記は、明治の文明開化によって、さまざまな文物とともに西洋から日本に導入されました。
  - 日本への西洋式簿記の導入は、明治6年、幕末明治の啓蒙思想家である福澤諭吉がアメリカ簿記テキストBook-keepingを翻訳（『帳合之法』）出版したことに始まります。

人類の共有財産としての複式簿記
～ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』（1796年）より～

- 商売をやってゆくのに広い視野を与えてくれるのは、複式簿記による整理だ。整理されていれば、いつでも全体が見渡されるし、細かいことでまごまごする必要がなくなる。
  - 複式簿記が商人に与えてくれる利益は計り知れない。複式簿記は人間の精神が生んだ最高の発明の1つだ。立派な経営者は誰でも経営に複式簿記を取り入れるべきなんだ。

（坂本孝司『簿記・会計先覚者の金言集・解説』TKC出版、2013年）

ドラッカー『現代の経営』（1954年）より

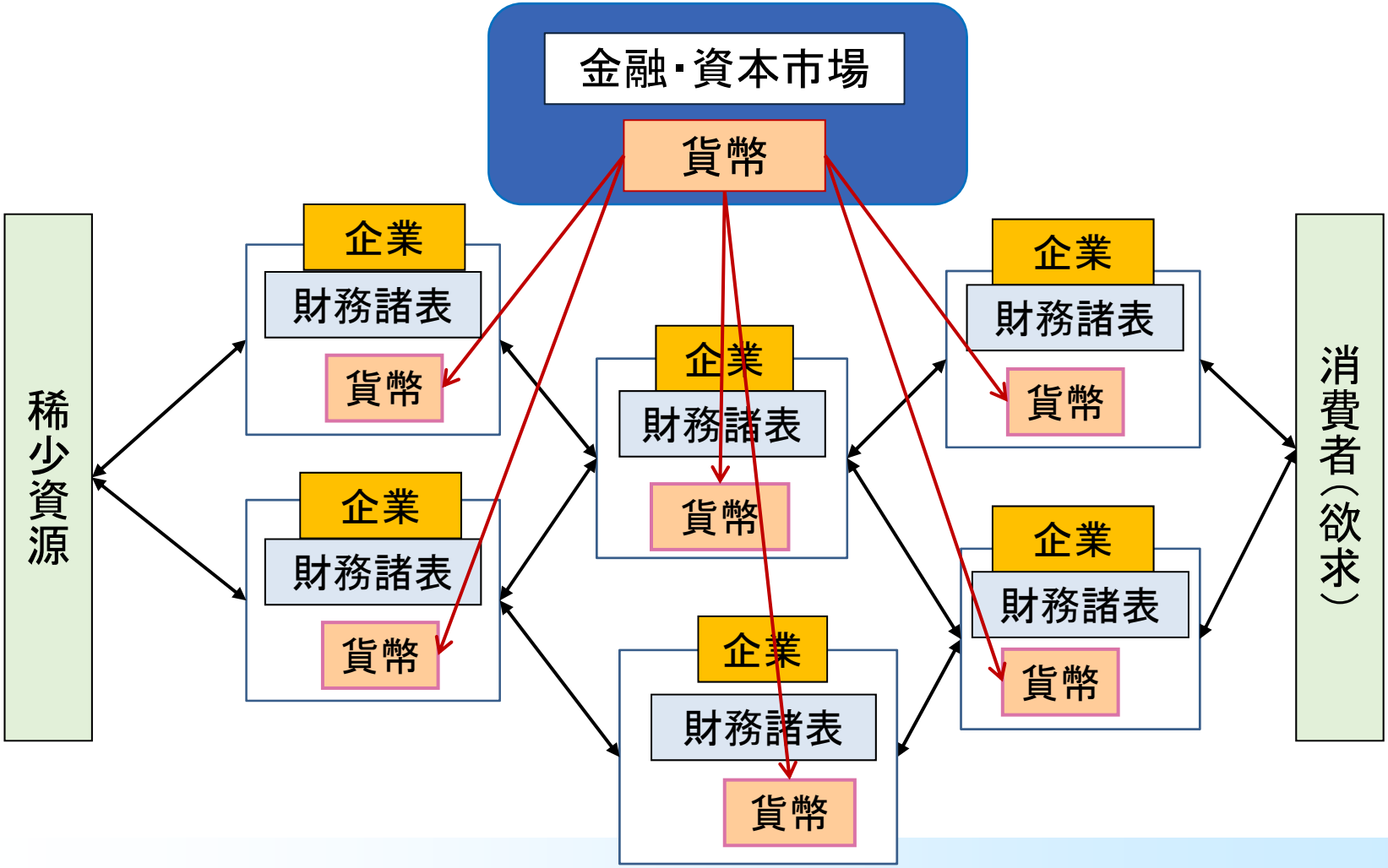
- 世界で最初のマネジメント学者は、ルネサンス時代の夜明けに複式簿記を考え出した、名前すらとうの昔に忘れ去られたイタリア人である。以後に考案されたマネジメント・ツールはどれ一つとして、複式簿記のシンプルさ、正確さ、実用性に太刀打ちできない。
  - いまなお、普遍性を持った紛れもない「マネジメント科学」と呼べるものは、複式簿記とそこから派生した手法だけである。

（坂本、前掲書）

資本市場と公認会計士に対する役割期待

市場経済と会計・監査

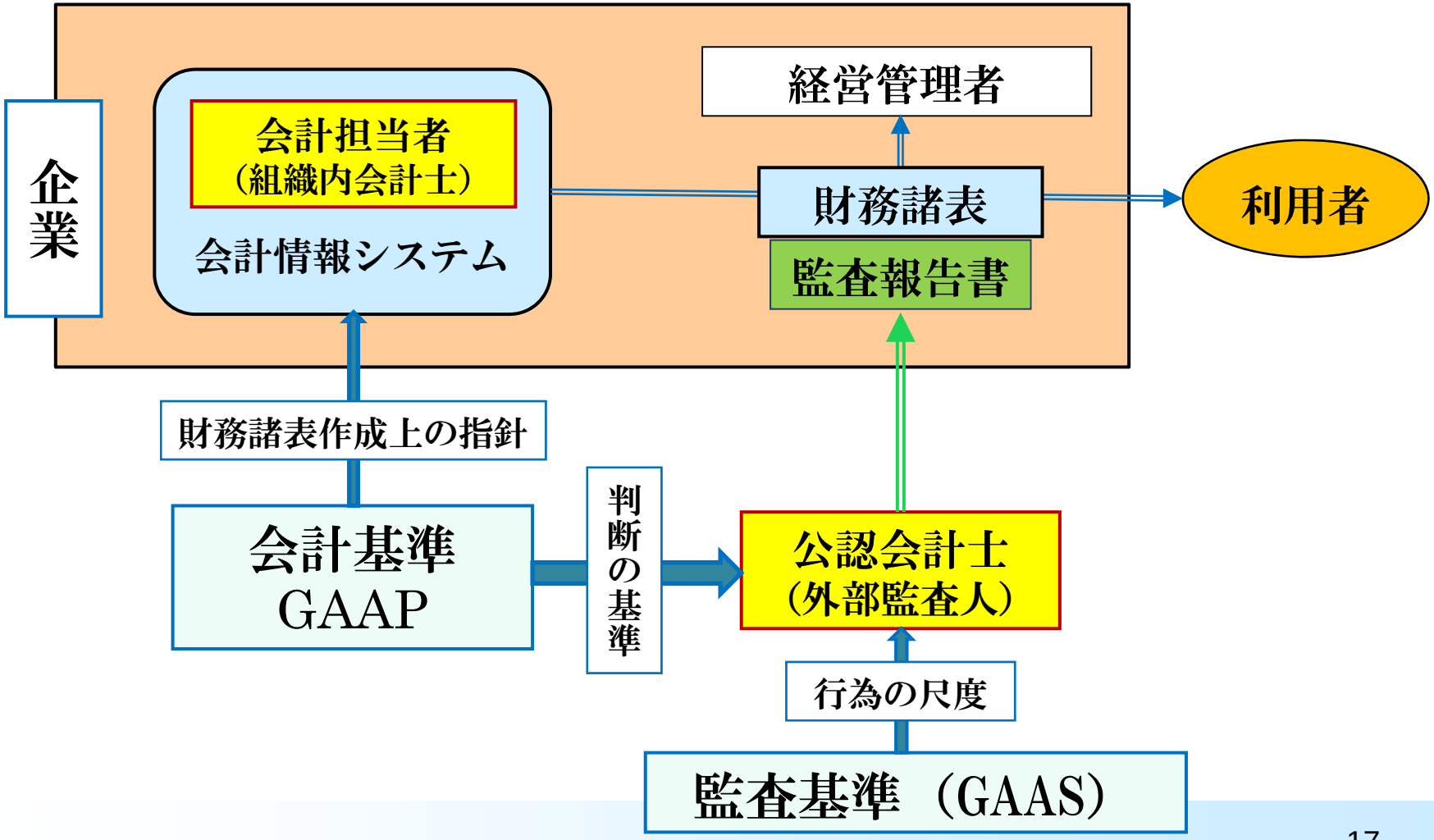
金融・資本市場における財務情報の重要性



公認会計士に対する役割期待

- 非常に有名な米国の２人の会計学者（PatonとLittleton）が、次のように述べています。
  - 大会社が出現し、所有と経営の分離傾向が生じると、信頼し得る適切な財務情報を提供するという会計の役割は拡大され、投資家などさまざまな企業外部の利害関係者に情報提供を行うようになった結果、会計は公的な性格を持つようになった。
  - それと共に、会計の公的な義務が果たされているか否かをチェックする役割が公認会計士に期待されるようになった。

財務情報の信頼性確保のシステム
～公認会計士の役割～



むすび

公認会計士という職業の可能性

- 国際会計士連盟（IFAC）会長は、2015年12月に東京で開催されたシンポジウム「グローバル経済を支える公認会計士の魅力と社会的責務」の基調講演で、次のように語っています。

　公認会計士はグローバルな将来の可能性が素晴らしいキャリアであり、これからの公認会計士には、その将来の可能性に向けて広い視野を持ってほしい。

　公認会計士は、社会からグローバルな視点と対応力が求められている。

公認会計士という職業の可能性（続）

皆さんは、公認会計士として身につける知識や手段を使って、いかに公共の利益に変化をもたらし貢献できるか、大胆な想像力で公認会計士という職業を進化させていってほしい。

そのためにも、次世代のリーダーとして常に正しい行いをすることによって、公認会計士という職業は最高レベルの倫理と行動に支えられているという価値観を守ってほしい。同時に、誠実さ、公正さ、善良さによって、キャリアの基盤を強化していってほしい。

（『会計・監査ジャーナル』2016年3月号、140-141頁）

公認会計士は、皆さんの未来の魅力ある選択肢の1つです。

自分が向かうべき未来に向かって
しっかりと地固めをして
悔いのない高校生活を送ってください。

公認会計士・監査審査会　廣本敏郎